

平成28年度 附属学校研究支援・特色化にかかわる事業実施報告書

事業の名称	豊かな心をはぐくみ生き方の自覚を促す道德教育の推進 ～心あったか事業～
事業実施代表者名	北海道教育大学附属旭川小学校 副校長 荒川義弘
実施附属学校名	北海道教育大学附属旭川小学校
事業内容 (実施内容について、 1,000字程度で記述)	特に「12年道德」において、本年度は幼小中において、教育課程に位置付けて実践するために必要な条件整備を進めてきた。幼小中で共通した指導項目で道德の指導を進めるのではなく、あくまでも共通体験を事前・事後の活動として位置付け、教育課程の中に馴染ませていくことが重要であることから、各学校園の年間指導計画の中に踏まえられている状況をつくり、学習環境の整備を進めた。幼稚園においては、道德が存在せず、指導を活動の中で進めていくようになっているため、12年道德として一貫して進められるように教育課程を新たに作成した。そのような取組において、道德性検査を実施し、児童の実態を把握すること、また本校児童の道德性における経年変化を把握することは極めて重要なことである。
成果と課題 (活動の成果と課題について、500字程度で記述)	道德性検査は、2年生以上の学年で実施した。どの学年においても、道德の視点1～4で全国との比較においてそれを上回る高い傾向にある。また、同一学年内で前年度の比較において数値が伸びており、道德性の育成に望ましい結果を得ている。しかし、中において視点2「主として他の人とのかわりに関すること」では、全学年が全国数値を上回るものの、学年が進むに従いその数値傾向が低くなっていることが見て取れる。このような状況を踏まえ、本年度重点目標である「つくりだす心」を育てるために、「道德の時間」の充実と「生徒指導」「教員の指導力向上」「特色ある学校の取組」において取組を重視した。「道德の時間」や日常の「生徒指導」においては、特に他校種との連携を生かし、他とのかわりを重視した道德の時間を構成した。「教員の指導力向上」においては、先進的な取組や考え方を関連する文献から得ることができ、先に記述した「道德の時間」や「生徒指導」に十分に生かすことができた。また、「特色ある学校の取組」においては、先進校視察を通して幼小中の関連を生かした指導の在り方の情報を得、旭川団地で取り組んでいる「12年道德」の公開授業を推進し、広く研究内容を発信した。
今後の発展性 (残された課題の解決 方策及び取組の方向 性について、500字程 度で記述)	今後も、継続して道德性検査からデータを分析して、「道德の時間」「生徒指導」「教員の指導力向上」に生かしていくことが重要であると考え、今後も他校種間連携を生かした取組は、共通体験を基にした道德の時間を積み重ねることで、道德的真情や判断力を育てることが大切である。そのためには、検査のデータを指導の根拠や参考にして、実践を進めることが必要である。

<p>事業の公表状況</p> <p>(事業をHPで公開した場合、又は新聞等に掲載された場合、当該媒体名、掲載日等を記入)</p>	<p>I 資料作成</p> <p>1 12年道徳の概要の作成</p> <p>2 共有活動の計画と実践</p> <p>3 各校園の教育課程に位置付けた実践活動の創造</p> <p>4 授業力向上セミナー公開授業指導案等</p> <p>II 授業力向上セミナー(道徳)HPでの紹介(9月)</p> <p>III 北海道通信(授業力向上セミナー)掲載 (平成28年11月14日)</p>
--	--

(注) 当該事業に係る写真等の参考となる資料がある場合は、この事業報告書に添付すること。